

兵庫県立大学附属高等学校付近で確認されたシタベニハゴロモの記録と行動観察 当地での観察から得られた生態に関する知見

菅藤康平¹⁾

はじめに

シタベニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White) は、中国、台湾、ベトナム、インドに分布し、後に韓国やアメリカでも発生が確認されたビワハゴロモ科の昆虫で、2009年に石川県小松市での発生が富沢章氏によって報告され、2013年には福井県あわら市でも確認された。そして2017年には大阪市住之江区南港中で1♀が採集され、2019年には兵庫県上郡町に隣接する岡山県備前市内の伊部で1ex.、穂浪で多数が確認されている(高橋, 2022)。

筆者は、兵庫県立大学附属高等学校付近(上郡町およびたつの市)に生息する昆虫相を調べており、現在は半翅類について詳しく調査を実施している。その調査の中で、シタベニハゴロモが2023年より確認できるようになり、2024年の夏季休業より本格的に調査に着手したところ、カラスザンショウに最も集中していることが分かり、その行動を観察してきた。

本稿では、兵庫県立大学附属高等学校付近に生息する本種の採集記録・行動観察の報告及び、これまでの兵庫県における確認記録との比較を行う。また、本稿に掲載したすべての確認記録として、採集地・確認者は全て、たつの市新宮町光都でありかつ筆者であるため、省略した。

1. これまでの兵庫県における記録

調査前の記録は、過去にたつの市や上郡町、赤穂市、明石市(高橋, 2022)、姫路市(昆虫漂流記, 2023)などで報告や発見例はあるものの、その後の情報はまとま

ておらず、詳しい情報は、あまり分かっていない。

2. 調査のきっかけと調査以前の観察記録

2023年7月13日、部活でビオトープに生息する水生昆虫を漁っていた時、ビオトープの端の下草の生えた地面を歩いていた1匹の♀を採集した。当時筆者は偶産だと思い、あまり深掘りしなかった。

それから1年後の2024年5月から、部活の先輩方などからも本種の情報の提供などを受けることが多くなり、筆者自身も採集・目撃することが多くなった。そこで、こういった生態なのかについて深く興味を惹かれ、調査を実施することにした。

3. 調査地とその環境について

調査地は標高約250~380mの準平原に位置する、播磨科学公園都市内の兵庫県立大学附属高等学校付近にある星の広場(図1)とその星の広場に続く道(図2)である。気温はどちらも約35度ほどであった。

4. 幼虫の確認

2024年5月20日、アカスジキンカメムシの採集のため、星の広場(たつの市新宮町光都)に向かった際、ガードレールに静止する本種の幼虫を発見した。5月から7月上旬までは、ガードレールに静止する幼虫を多く観察することができたが、また、本種の幼虫は様々な



図1. 星の広場.



図2. 星の広場に続く道.

¹⁾ Kohei KANTO 兵庫県立大学附属高等学校

植物上についている様子も見られたが、この時は、本種の寄主植物の解明はできなかった。

5. 成虫の確認

2024年7月下旬から9月半ばまで、成虫を多く観察することができた。この時にカラスザンショウから最も多くの成虫を観察することができた。また、兵庫県立大学附属高等学校敷地内で本種の成虫の死骸もいくつか観察することができた。

6. 調査結果まとめ

調査結果と採集したものの写真については、表1及び図3-26で示す通りである。調査日が不規則なのは、他の用事等が要因である。

7. 考察

今回の調査の結果を踏まえ、過去に本稿で発表された記録との比較を行う。

1) 成虫が確認された時期

今回の調査では、5月頃から少しずつ確認でき、7月下旬から9月半ばが最も多く得られた。過去に発表された記録では、8月から10月にかけて発見されることが多いようであり、今回の調査結果ともあまり相違点は見られない。

2) 寄主植物の確認記録

今回の調査のほとんどの個体がカラスザンショウから得られたが、過去に発表されたデータでは、ほとんどが、ニワウルシからの発見がほとんどであった。今回の調査を行った場所にも、ニワウルシ(図27)があったものの、そのニワウルシが生える場所に行くには、危険を伴うため、未調査である。

3) 白紋の個体と青紋の個体について

本種には、後翅に白い紋又は青い紋を持つ二つのタイプが知られているが(高橋, 2022)、今回の調査では白い紋と青い紋の両方のタイプが得られ、各タイプの個体の数になんらかの規則性は見られなかった。

おわりに

今回シタベニハゴロモについて大量の記録と興味深い知見を報告することができた。しかし、NPO法人こどもとむしの会の『みんなも、昆虫調査員! このむし、みつけたら、おしえてね【MM:むしみつけ2024年版】』において情報が少なく、兵庫県全体の生息状況がまだ把握できていないこと、冬の様子が確認出来ていないことから、まだまだ調べがいがある。

そこで、筆者はGoogleフォームにて、「シタベニハゴロモの情報提供フォーム」を設置した(本稿末尾に記載)。これを読んでくださった方にも探していただき、是非とも「シタベニハゴロモの情報提供フォーム」へご報告いただきたい。

表1. 8月以降の記録.

採集日 / 観察日	場所	ステージ	数	発見地の様子など	備考
2024/8/9	星の広場	成虫	♂: 4匹 ♀: 10匹	星の広場とそこに行くための道にあったカラスザンショウから採集	図3-14
2024/8/23	星の広場	成虫	♂: 1匹 ♀: 2匹	カラスザンショウの幹に三匹静止	図15-17
2024/9/3	星の広場	成虫	♂: 2匹	カラスザンショウから1匹、ヤマハンノキから1匹	
2024/9/4	星の広場	成虫	♂: 5匹 ♀: 3匹	カラスザンショウのスイーピングで採集	図18-25
2024/9/4	星の広場	成虫死骸	1匹(雌雄不明)	学校の階段上で踏まれた死骸確認	図26
2024/9/5	星の広場	成虫	♂: 3匹 ♀: 3匹	星の広場のカラスザンショウとそのまわりのエゴノキから	
2024/9/5	星の広場	成虫死骸	1匹(雌雄不明)	ガードレールにへばりついて、死んでいた。腹部の欠損から蟻によるものと思われる	
2024/9/10	星の広場	成虫	♂: 1匹 ♀: 1匹	星の広場のカラスザンショウから	
2024/9/12	星の広場	成虫	2匹	以前よりかなり減った。寿命は、9月末?	目撃したが、採集できず



図 3.



図 4.



図 5.



図 6.



図 7.



図 8.



図 9.



図 10.



図 11.



図 12.



図 13.



図 14.



図 15.



図 16.



図 17.



図 18.



図 19.



図 20.



図 21.



図 22.



図 23.



図 24.



図 25.



図 26.

引用文献

高橋弘樹, 2022. 兵庫県におけるシタベニハゴロモの確認記録. きべりはむし, 45(1): 93-94.

昆虫漂流記, 2023年9月3日. シタベニハゴロモ 兵庫県姫路市安富町. <https://ameblo.jp/tentoumushi26/entry-12820194521.html>

シタベニハゴロモの情報提供フォーム
<https://forms.gle/BTPPjr8HeB7kMc2MA>

